

(様式2)

## 公益社団法人日本心理学会研究集会等助成金成果報告書

代表者氏名	宇井 美代子	所属	玉川大学
研究集会等名称	公益社団法人日本心理学会ジェンダー研究会主催 「海外におけるジェンダーをめぐる日常」		
成果概要	<p>1) 参加人数 (会員・非会員及び認定心理士の人数を記載してください)</p> <p>会員 11 名 (うち認定心理士 1 名) 非会員 0 名 (うち認定心理士 0 名)</p> <p>2) 集会等の目的・成果等 (実施内容・成果・将来計画等を用紙範囲内に記載してください)</p> <p>○公開研究集会の目的 これまでにジェンダー研究会では、シンポジウムやワークショップを複数回開催し、学術的な観点からジェンダー問題について探求をしてきた。しかし、日本のジェンダー問題を理解するためには、海外の状況を把握することによって、日本の状況を世界の中に相対的に位置づけていくことも必要である。そこで、実際に海外での活動経験を持つジェンダー研究会会員3名に、各国でのジェンダー問題について紹介してもらい、日本のジェンダー問題を浮き彫りにすることを旨として、本公開研究集会が行われた。</p> <p>○公開研究集会の実施内容・成果 本公開研究集会では、3名の話者提供から、海外における研究活動について、また、実際に体験したジェンダーをめぐる当該国における慣習や諸制度について、発表がなされた。神前裕子氏からは、特にドイツにおける子育てに関わる諸制度について報告がなされた。土肥伊都子氏からは、特にオーストラリアにおける研究活動と日常の慣習について報告がなされた。滑田明暢氏からは特に、イギリスにおける研究活動と日常の慣習について報告がなされた。これらの報告がなされることによって、学術的な観点からジェンダー問題を深めていくだけでなく、学術的な俎上に乗りにくい発表者自身が実際に感じた事柄も同時に把握することができ、海外と日本の状況をより包括的に理解していくための基礎資料を得ることができた。</p> <p>○将来計画 これまで研究者たちは個別的に、学術的観点と日常的観点を双方からジェンダー問題にアプローチし、両観点の融合を試みてきていた。しかし、本公開研究集会の開催によって、個別的に行われてきたアプローチを共有することができた。今後の活動においても、学術的観点からジェンダー問題にアプローチすることはもちろんのこと、日常的観点も踏まえて包括的にアプローチし、その知見を共有して、ジェンダー研究のさらなる発展を目指していきたい。</p>		

2014年3月30日

日本心理学会研究会 2013年度会計報告書

研究会名称 公益社団法人日本心理学会ジェンダー研究会

研究会番号 研13030

助成金額 ¥20,000

年月日	項目	金額
2013年8月13日	会議室室料・備品使用料 (TKP札幌ビジネスセンター)	¥24,150

---

支出合計 ¥24,150